

平成 22 年 4 月 28 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19320080

研究課題名 (和文) 異文化理解を目指した英語聴解力養成用 CALL 教材の開発

研究課題名 (英文) Development of a CALL System for Cultural Understanding

研究代表者

高橋秀夫 (TAKAHASHI HIDEO)

千葉大学・言語教育センター・教授

研究者番号：30226873

研究代表者の専門分野：英語教育，教育工学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語，異文化理解，コミュニケーション，CALL，マルチメディア

## 1. 研究計画の概要

英語の習得には四技能（読む，書く，聞く，話す）のバランスよい学習が必要であることは言うまでもないが，とりわけ基礎力として十分な語彙力の育成とともに聴解力の効果的養成が不可欠である。また，円滑なコミュニケーションの実践には四技能に加え，当該言語が使用される国，地域の生活，習慣等に関する文化的知識が要求される。本研究の目的は英語コミュニケーション能力育成において基礎力として重要視されている聴解力を異文化理解と融合させて指導する CALL 教材を開発することである。これまでのアメリカ英語を扱って開発した教材群をより包括的なものにするため，4年間の研究でオーストラリア編，イギリス編，カナダ編教材3種を開発し，アメリカ文化，オーストラリア文化，イギリス文化，カナダ文化を扱った教材ラインを完成させる。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 平成 19 年度はオーストラリア編教材を開発するため，素材トピック，ジャンル選定を行った。素材トピック，ジャンルの選定については協定校のオーストラリア・モナシユ大学の協力のもと，歴史，文化，自然，気候，政治，衣食住，習慣，教育，言語表現などを精選するとともに，ロケ地，出演者交渉を行った。ビデオの収録はオーストラリア・メルボルン市およびその近郊で行われ，オーストラリア・メルボルンでの素材（動画・静止画）の収録，および編集を行った。

(2) 平成 20 年度はオーストラリア編教材のコースウェアを開発し，CALL 教材，Gateway to Australia を完成させた。開発した教材は 4

ユニット (Unit 1 Welcome to Melbourne, Unit 2 Facts about Australia, Unit 3 Monash University, Unit 4 Aussie Way) からなり 30 時間～40 時間の学習時間を要する。Online での起動も可能で，学生はキャンパス内の端末だけでなく，自宅からインターネットを介して学習ができる。平成 20 年度後期から授業で使用することが可能になった。

(3) 平成 20 年度は同時に，イギリス編教材のための素材トピック，ジャンル選定を研究代表者，イギリス人研究分担者で行い，イギリス，ロンドン，バース，エクセターでの素材（動画・静止画）の収録，および編集を行った。

(4) 平成 21 年度はイギリス編教材のコースウェアを開発し，CALL 教材，A Bit of Britain を完成させた。開発した教材は 4 ユニット (Unit 1 Welcome to London, Unit 2 Historical Sights, Unit 3 English Countryside, Unit 4 Working People) からなる。平成 22 年度前期より授業での使用が可能となった。

(5) 平成 21 年度は同時に，カナダ編教材のための素材トピック，ジャンル選定を研究代表者，カナダ人研究協力者の間で行い，カナダ，アルバータ州での素材（動画・静止画）の収録，および編集を行った。平成 22 年度に教材を完成させ，平成 23 年度より授業で使用する予定である。教材は平成 22 年度の授業で使用予定である。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(理由)

計画開始当初懸念された，不安定な国際情勢

により素材収録が困難になるなどの事態が起こらなかったため、過去3年間で3種の教材のための動画素材収録は完了した。開発、制作が終了した2種類の教材についても研究分担者、連携研究者、研究協力者、謝金雇用者等の協力を十分に得ることができ、計画は予定通り順調に進行している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

研究計画の変更はない。過去3年間に行ってきた研究手法を用いて教材開発を継続し、完成年度である本年度終了時には従来開発したアメリカ文化教材に加え、オーストラリア文化、イギリス文化、カナダ文化を扱った教材ラインを完成させる。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

土肥充, 高橋秀夫, Lorene Pagcaliwagan, 竹蓋順子, 竹蓋幸生, 「映画DVD対応CALL教材支援システムの開発と試用」, 『e-Learning 教育研究』, 第3巻, 2008, pp. 9-18.

高橋秀夫, 土肥充, 久保田正人, Lorene Pagcaliwagan, 桑原市郎, 荒巻英司, 小笠原春菜, 「統合型Online CALLシステム — その全体構想と中間報告」, 『言語文化論叢』, 第3号, 2009, pp. 61-76.

桑原市郎, 高橋秀夫, 「三ラウンド・システムに基づいた高校生向け英語リスニングCALL教材の開発」, 『言語文化論叢』, 第4号, 2010, pp. 33-44.

[学会発表] (計3件)

高橋秀夫, 土肥充, Lorene Pagcaliwagan, 竹蓋順子, 竹蓋幸生, 「Web対応CALLソフトウェア開発支援システムとCALL教材の開発」, 外国語教育メディア学会, 2007. 8. 9, 名古屋学院大学.

高橋秀夫, 土肥充, 久保田正人, L. Pagcaliwagan, 「統合型英語 Online CALL システムの開発」, 外国語教育メディア学会, 2009. 8. 5, 流通科学大学

桑原市郎, 高橋秀夫, 「三ラウンド・システムに基づいた高校生向け英語リスニングCALL教材の開発」, 外国語教育メディア学会, 2009. 8. 5, 流通科学大学.

[その他]

Online 対応 CD-ROM 英語 CALL 教材 (計2件)

高橋秀夫, 土肥充, L. Pagcaliwagan, 竹蓋幸生, 竹蓋順子, *Gateway to Australia*, 千葉大学, 2008.

高橋秀夫, 土肥充, L. Pagcaliwagan, Sarah Morikawa, 竹蓋幸生, 竹蓋順子, *A Bit of Britain*, 千葉大学, 2009.